

小さな叫び

自然が泣く声 聞こえるよ  
神様あきれて 泣いてるよ  
どうしてお山を こわすのよ  
どうして海まで こわすのよ  
どうして宇宙へ 旅するの  
どうして優しく 生きないの

黒いお空にお星さま  
お山のあるところ いっぱい いるよ  
広い海には いっぱい いるよ  
下から見るから 綺麗だよ  
優しい心が 育っていくよ

お山の神様 ごめんなさい  
仲間がいじめてばかりいて  
海の神様 ごめんなさい  
広い海をこんなにいじめて  
宇宙の神様 ごめんなさい  
仲間が神密 憧れて

みこし

強い朝日に 法被を羽織り  
仲間が俺を 迎えにきたよ  
タバコ屋 寿司屋 漁師に セールス  
みんなが俺を 迎えにきたよ  
ブルーの羽織に 水玉はちまき  
バチを片手に 迎えにきたよ

港は神輿がどっしり座り  
神輿は人ごみに祝福された  
お清めされた神輿の前で  
誰もが朝酒あおるのさ

神の声を合図とともに  
誰もが神輿にしがみつき  
太鼓が鳴りだし 鐘が鳴り  
風をあおいで 酒を撒き  
辺りはざわめく 活気にあふれる  
太鼓の音が遠くに聞こえ  
誰もが大きな声を出す  
熱い体は触れ合うたびに  
強い力がこみ上げる  
真っ赤な体は冷めることなく熱くなり  
美声は誰もがかすれてきたのさ  
神輿の頭は賽銭と白い包みが覆ってた  
町中担いだ俺の肩  
真っ赤なこぶに変わってた  
家路へ向かう俺の頬  
優しい風が迎えてくれた

参道へと

これからは何が 俺を苦しめるだろう  
そして苦しみを 何が支えるだろう  
支えた苦しみは 何を育てるだろう

心のひずんだ今の俺  
怖くて怖くてたまらないんだ  
苦しみをじっと耐えてる俺がいる  
苦しみに立ち向かっていく俺がいる

業が俺を襲うんだ  
弱さが俺より強いんだ  
理屈が俺を逃がすんだ  
幸せなんて不揃いさ  
幸せ何て敗れると  
修験者の道 歩きたいんだ  
一つ一つを大きく見つめ

歩きたいんだ  
夜空の月に振り向いた  
獣のように威嚇した  
素直な心で問いかけた  
なぜ俺は苦しむ  
なぜ俺は心から笑えない  
なぜ幸せはこんなにもはかない

いつしか俺は 心から 参道へと歩いてた